

2017年秋号

西の京 都和のはな便り

百寿(ももじゆ)のお祝い

五人の入所者様が百歳を迎えられました

京都府・市より職員の方が、百歳のお祝いに西の京を訪問くださり、家族様、他の利用者様も交え、盛大にお祝いさせていただきました。今年、西の京全体でなんと五名の方が対象。百歳を目標に頑張りつづられた方もあり、「ますます元気で頑張りなさい」と笑っていらっしやいました。

他の利用者様からも「私たちはまだまだやな、百歳でも元気や」等のお声が出され、元気を分けてもらえたように感じました(O&U)

お盆には、数珠回し

八月のお盆に、「数珠回し」に取り組みました。職員手作りのカラフルな大きな数珠を、利用者様が輪になり、昔を思い出しながら手に取って回して頂きました。大玉が来ると額に珠を当てて、ご先祖様への感謝を捧げていました。

利用者様からは「こんなんやってた。懐かしい」との声や、涙を流されている方、一心に手を合わせ目を閉じ祈っている方、様々にこの時間を過ごされていました。(K)

坊さんに扮してお経をあげる職員 ↓



京都府の職員の方に表彰されるY様 →

「グループホーム」って どんなところ??

グループホーム都和のはな管理者 猪熊厚志



「グループホーム」という施設名称は聞いたことはありますよね?

でも聞いたことはあっても詳しくは知らないという方々に、改めて知りたいと思います。

「グループホーム」では、認知症状で生活に困難を抱えた方々が、専門スタッフ等の介護サービス、生活支援サービスを受けながら、食事や掃除・洗濯を自分たちで行いつつ共同生活を営み、リハビ

リやレクリエーションの機能訓練を通して、認知症状の進行を緩やかにし、健康的な暮らしが出来るよう対応しています。

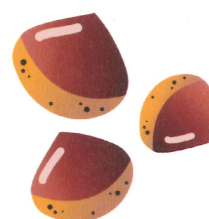
老人ホーム等の福祉施設というよりも「お家」と言った方がしっくりします。9人までの利用者が同じ居住空間で過ごし、「出来るだけ家庭に近い環境で地域社会に溶け込んで生活する」ことが可能です。

グループホーム都和のはなでは、生活理念に「ゆっくり、楽しく、自由に」を掲げ、ご入居者各自の個性を活かし、落ち着いた環境で生活して頂けるように支援させていただいています。

お気軽に見学にお越しください。お待ちしております。



生活リハビリについて学び中です



生活リハビリとは、介護技術の一つで、生活リハビリテーションの略です。

高齢者や病者等が出来ること、出来ないことをアセスメント（評価）によって的確に把握し、障害の原因分析を行い、有している能力に対して適切な介助を行うことで、生活活動を少しでも広げ、機能の維持・改善することを重視した介護技術です。

西の京では2017年4月から委員会

を立ち上げ、具体的な評価方法を学び、職員のスキルアップ、利用者様が楽しみながら出来ることを増やしていける施設生活になるよう、奮闘中です。現在委員2名を含む職員4名が全6回の「生活リハビリ講座」という研修に参加し、知識を深めています。

これからは、生きがいを感じ目標を持って生活できる施設を目指したいと思います。(S & A)



沖縄の平和を守る支援行動に参加しました

西の京 永友隆哉(事務課) 森千紗(通所リハビリ)

9/6~7 に沖縄・辺野古基地反対の支援行動に参加して来ました。

那覇市内より車で1時間弱、当日は、雨が降ったりやんだりの天気でした。

現地は物々しい雰囲気、いつ工事車両の搬入があるかと待ち構えていたのですが、その日は沖縄の終戦記念日だったらしく搬入はありませんでした。

辺野古基地予定地の大浦湾にも視察に行きました。秘密基地のようなガジュマルのトンネルを越えると、沖縄らしいきれいな海と珊瑚の浜辺がありました。その先には、群青色をしたきれいな湾がありましたが、その水面にはオレンジ色のブイが浮かんでいるのが、異様な雰囲気を醸し出していました。

当日は波も荒々しく、カヌーでの抗議

活動は中止でしたが、穏やかな時は工事の反対行動をされていると聞きました。遠くに見えるブイも、当日は干潮だったこともあり、すぐ近くに感じました。「ブイがあるところまでが基地になる」と聞き、きれいな海や珊瑚は埋め立てられるんだと、胸が詰まる思いでした。

テント村内では、天然記念物のオカヤドカリが姿を現し、いかに沖縄という土地が自然にあふれ、未来に残すべき自然の一端を垣間見ることができました。



COLUMN

介護のお仕事



社会的自立について

西の京・介護福祉士 太田隆継

今回は、社会的自立についてお話しします。

例えば、下半身不随で車椅子生活をしている人がマンションに住んでいたとします。マンションで火事があり、急いで逃げなければなりません。逃げるルートは、西階段、東階段、エレベーターの三つ。歩けないその人の選択肢は、当然エレベーターに限定されます。

火事でエレベーターが止まっていたらどうなりますか？逃げられません。でもお隣さんが仲良しで屈強な男性なら、おんぶして降りてくれるかもしれません。もしくは避難用の滑り台があれば逃げられるかもしれません。

解決すべきことは、エレベーターのみに依存してしまうこと。つまり、社会的自立とは依存できる選択肢を増やすことです。

利用者様の選択肢を増やす、他者や社会との繋がりの媒介になる、安心できる環境を整える、介護者の関わりが大事です。決して他人の力に頼ることは悪い訳ではなく、他者との関係や社会的なつながりを選びにつなげ、主体的なサービス利用者として生活する事が自立であると言えます。

新入職員を紹介します



あしだ のくさ
芦田 野草

通所リハビリテーション
介護士

通所リハの介護士、新しい仲間をご紹介します。

Q.「介護職を考えたきっかけは？」

昨年から入院していた父の看取りを今年したことからです。

Q「今までどんなお仕事をしていましたか？」。

独身時代は接客販売業です。

Q「好きな言葉は？」

唯心

Q「モットーは？」

明るく、軽く、澄む。総てを解き放つ。

時空一点御縁深遠



皆様との時間共有を大切に、日々、安全と楽しみを感じ過ごしていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

介護保険改善を求める署名にご協力お願いします

西の京の昼ごはん

7月の行事食～土用の丑の日



ご飯、穴子の蒲焼き、短冊芋
つみれのお吸い物、ミックスフルーツ

散し寿司では刻んだ穴子をトッピングすることはありますが、大きな穴子を提供するのは土用の丑の日のみです。錦糸卵が鮮やかで、甘辛い味つけで食が進み、「美味しいごちそうありがとう」との言葉をいただきました。

8月のおやつ～みたらし団子とコーヒー



利用者様のリクエストで、手作りのみたらし団子を提供。白玉粉だけではもちもちとしすぎるので、豆腐を入れて粘りを抑えます。「懐かしいわ～」とあっという間に皆様完食されました。(Y)

☆ ☆ 編集後記 ☆ ☆
毎週水曜日、都和のはな1階にある「カフェはな」で開催される「手づくり野菜市」が目下の楽しみです。
安くて美味しい野菜はもちろん、大根の実(さや)やピーツ、ジャンボニンニク等珍しいものもちらほら。私もプランターでピーツの栽培にチャレンジするも、なかなか大きくならず、ヤキモキしています。(T)